

あしびぎの山鳥の尾の

しだり尾のながながし夜を

ひとりかも寝む

ひ
比
比
ひ

毛
毛
毛
毛

が
あ
あ
あ

い
い
い
い

山鳥の尾の、長く長く垂れ下がった尾っぽのように
長い夜を(想い人にも逢えないで)独りさびしく
寝ることだろうか。

中一二三

柿本人麿(三番)